

9月入学が投げかける波紋

9月1日付の朝日新聞朝刊をご覧になったでしょうか。東京大が5年後をめどに9月入学の実施を打ち出しました。主な内容は、従来通り2月または3月に入試を行い、入学式は9月に行うというものです。主な目的はグローバル人材を育てるために国際化を進め教育・研究の質を高めるということです。しかしそれがどうして9月入学なのでしょう。

世界のトップレベルの大学間では、優秀な学生の争奪戦が激化しており、『4月入学』が壁になり、優秀な人材が欧米などに流れている」との指摘が相次いでいました。これらの提言を受け、文部科学省は9月入学を進めるためにはまず、「大学の原則4月入学」の規定を撤廃する必要があると判断。学校教育法の施行規則を改正し、規定を「学年の開始と終了の時期は学長が定める」と改めました。

現在、日本から海外への留学生が激減していることはかなり深刻です。たとえば日本からアメリカへの留学生（大学生・社会人・高校生を含む）は1997年までは5万人近くおり、1位でした。しかし2009年は2万5千人を割り2001年の4万7千人から比べると半数近く減少しています。それに対し1998年に中国が1位となり、その後毎年約30%ずつ増加し、2009年には13万人となりました。インドが11万人、韓国が7万人、カナダが2万7千人、台湾が2万6千人と増加する中で日本は2万4千人台で6位となってしまいました。また、日本の大学を経ずに直接海外（アメリカだけでなくアジア、欧州、豪州）の大学に進学する高校生は毎年約5千人いますが、現在4年制大学に進学する数の約60万人（国公立13万人、私立47万人）に比べればその比率は0.8%で大学生同様他国とは比べ物にならないくらい低いものです。世界の中で日本のように9月入学でない国は、シンガポール（1月）、オーストラリア、ニュージーランド（1月末～2月初め）、韓国（3月）などがありますが全世界から見れば圧倒的に9月入学が多くを占めています。したがって9月入学になればカリキュラムの関係からも当然留学がしやすくなりますし、留学に来てもらいやすくなります。世界全体の留学生は2008年には330万人で2025年には720万人になると予測されています。留学数さえ増やせば何もかもが良いとは必ずしもいえません。当然留学の目的や内容も重要であることは明らかです。しかし、この減少傾向の中で、国際的な視野を持って活躍できる日本人は今後減ってしまうのではないのでしょうか。

これは民間、大学や学生だけの責任では必ずしもありません。中国や韓国などは多くの優秀な学生に多額の奨学金を与え留学を促進しています。日本とは桁違いの予算を組んでいます。それに比べれば日本の留学生へのサポート事情は貧弱です。現在の日本の経済状態や大震災の影響からすれば厳しいことも分かりますが、先々の人的な投資を怠ることにより5年後、10年後を見据えた中で、このままではこの先の日本は世界からはるかに遅れをとることは明らかです。この現状を憂いて東京大学が最後ともいえる手段に出たのは必然的なことだと思います。

大手企業では外国籍の学生を大幅に増やしているのはご存知ですか。たとえば大手企業のパナソニックの場合、2010年度新卒採用1250人のうち海外で外国人を採用する「グローバル採用枠」は750人でした。2011年度は外国人の割合を増やし、新卒採用1390人のうち、「グローバル採用枠」を1100人にするそうです。「日本国内の新卒採用は290人に厳選し、なおかつ国籍を問わず海外から留学している人たちを積極的に採用します」と述べています。日産自動車や楽天など社内用語を英語にしている日本企業はますます増えています。当然のことながら国内外を問わず大学で勉強していない学生や英語能力がない学生はますます就職が難しくなるはずですが、中国人や韓国人の大学生の多くは最低2か国語を話せて、高い専門知識の勉強もしています。これまでのように日本の大学だけに執着して会社に就職してから教えてもらうという考えでは、外国人と同じ土俵に立てるはずがありません。

9月入学で発生する約半年のギャップイヤーの過ごし方をどうするのか。東京大学ではボランティア、海外研修など積極的な活動を期待しているようです。それは有意義なことであり決して悪いことではありません。しかし、経済不況の中でその資金はどうするのか。学生がアルバイトに明け暮れることも考えられます。ギャップイヤーを有意義に使いこなせない学生はその段階で入学時にますます差が開いています。卒業も7月になれば今より就職が1年遅くなるなど、問題は山積みです。しかし、すでに9月入試で10月入学を一部採用している大学では、ギャップイヤーを経験した学生の入学後の目的意識は高く中退率が低いという統計があります。もしこの制度が本当に定着すれば、国公立大学や私立大学も追随する可能性は大いにあると思います。5年後とはいえ、決して現在の横浜国際高校の生徒にまったくの影響がないとは思えません。企業や産業界を巻き込んだ問題になることも間違いありません。私は、9月入学にはいくつかの問題点はあるとは思いますがその考え方には賛成です。何年かかるかわかりませんが日本の大学も高校も外国に負けない学力を第一と考えしっかり勉強し、海外にもっと目を向けた学生が増加して欲しいと思います。自分の周りのことだけしか考えられず、早期から勉強そっちのけで就活に振り回されている大学生が目立つ昨今、これが日本の教育の改革につながることを願っています。